

学校臨床力高度化系
専門科目：記述式総合問題

【解答・解答例】

設問 1（配点 100 点各問 20 点）

●学習指導要領

文部科学省の告示文書であり、初等・中等教育段階の学校において教育課程を編成する際の大綱的基準である。一定の教育水準を確保し、教育の機会均等を保障すべく、各教科等の目標や最低限の教育内容を定めている。

●最近接発達領域

ヴィゴツキーが提唱した発達心理学の概念で、子どもが現在独力で解決できる課題のレベル（現下の発達水準）と、大人やより有能な仲間の助けを受ければ解決できる課題のレベル（潜在的発達水準）の間の領域を指す。

●検定教科書

初等・中等教育段階の授業において、教科の主たる教材として用いられる児童または生徒用図書すなわち教科用図書のうち、民間の教科書会社が発行し、文部科学大臣による検定を経たものをいう。

●校則の見直し

各学校が、教育目的を達成するために必要かつ合理的な範囲内で定める校則を、学校を取り巻く社会環境や児童生徒の状況の変化に応じて見直すことをいう。令和 4 年改訂生徒指導提要においてその意義が説かれた。

●いじめ

児童生徒に対して、当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的または物理的な影響を与える行為であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。

●カリキュラム・マネジメント

各学校において、教育内容を教科横断的な視点で組み立てることなどを通して、児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくことをいう。

※「教育内容を教科横断的な視点で組み立てること」の代わりに「教育課程の実施状況の評価および改善」「教育課程の実施に必要な人的・物的体制の確保・改善」も可

●チーム学校

校長のリーダーシップのもと教育課程・教育活動・資源が一体的にマネジメントされており、教職員や学校内の多様な人材がそれぞれの専門性を生かして力を発揮し、チームとして児童生徒の教育に当たる学校像を指す。

●学び続ける教師

教職生涯を通じて自律的・継続的に新しい知識・技能を学び続ける教師像をいう。教育基本法において、教師には絶えず研究と修養に励むことが求められているが、近年の環境の変化からその重要性が改めて認識された。

【出題の意図】

設問2（配点100点各問50点）

(1)

学校臨床力高度化系初任期養成コースが受験生に求める力として、子どもの背景を見通し、それに基づいて協働的に教育的な働きかけを行う力がある。この問題では、多様な子どもの背景とそれに起因する課題を捉え、具体的な支援の方法を問うことで、求める力を評価しようとしている。教師個人が何をするのかではなく、学校全体として何をするのかを問うているのは、教育活動を協働的な営みと捉えてほしいからである。

(2)

(1)では、個別的な支援の方法を問うた。それに対して、(2)は多様な子どもがいる集団への働きかけを問うている。それぞれの子どもの課題が判明してから対応するだけでなく、能動的にすべての子どもが過ごしやすい場所としての学級を創り上げるという意識を受験生にはもってもらいたいと考えて、このような出題をしている。